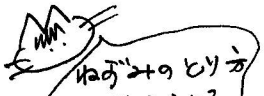
もりのなか新聞

で、本業は？

グーテンでは、「アロマセラピストの安珠さん」といつも紹介される。近所のばあちゃんには、「働かなくても、これだけやってけるんだから、たいしたもんだ」と言われる。いやいや、いちおう現金稼ぎはしてるのよ。私は植物療法関係のこと、もりやんは、パソコン使ったIT業。でも、基本は半農半X(※)です。

私は東京とかで「癒し」とか「健康」とか「心と体」とかに関する仕事をしてきましたが、自分を元気にする力は、みんな、自分の中にあるわけなので、そこに気がついてもらったりできること、するのがいいかなと思ってます。都会でアロマの香りをかいで癒されるのはいいけれど、ここで大自然と、自然の中での暮らしを体感するほうが、よほど人間らしいということ、住んでみて一層、確信しました。なので、もっと、ここでの暮らしや、はんとうの意味での自然の感じ方を、都会の人たちに伝えたいと思いはじめました。今年は、「半農」のほうが忙がしかったけれど来年は「半X」のほうにも力を入れて、美しく、おいしく、おもしろい裏鬼俤を知ってもらうこと、やりたいし、多くの人が、自分の住む場所、周囲の人を愛し、楽しく暮らしていける場所のモデルに、自分の住む場所をしていきたいと思うのです。仕事に与えられるものではなく作るもの。冬の間、薪ストーブと猫たちとぬくぬくしながら、おもしろいこと考えたいと思うので、一緒に考えたい人、是非、あそびに来て下さい。



※「半農半X」とは。できるところは自給しつつ、自分の特技などを生かして仕事にするという考え方

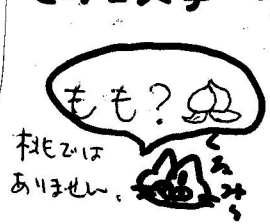
薪ストーブ様来たる！

命名『カルシファー』

ちっ、ジブリのまねかよ

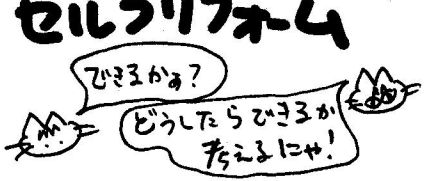
逆のぼること数年前。友人宅で見た、赤いストーブ。そして彼女は薪ストーブクッキングの達人。雪国に行くなら、これだ!!と思い心に決めていたバーモントキャスティングスの薪ストーブさん。「薪ストーブ入れたいんです」の私達の言葉に早速、丸太を軽トラに積んで持ってきて下さった伊藤さんの姿は、今でも忘れません。長らくお借りしていた『薪ストーブの本』も様々なアドバイスも感謝です。寒くても体も心もあたたまる冬至即です。

2010 "挑" この1文字



移住一年目。左も右もわからない。その上、いつまでたっても溶けない雪。地球ほんとに大丈夫？と思いつつスタートした畑仕事。しかし、畑より楽しいものを知ってしまった。それは、山菜採り。庭のヨモギやツクシなど野草も食べてみた。美味。雪解け後、大慌ての畑仕事も、小栗さんはじめ、近所の皆さんに教えてもらいつつ、野菜ももらいつつ。幸次郎さんや花ちゃんにもたくさんのこと教わりました。お陰様で、野菜はほぼ自給。今も土間には元気な蕾菊やシクラメンがいます。8月末から始まった改修工事。家のことってキラキラ〜な私たちにも、いろいろ教えてくれてやらせてくれた大工の奈良都さん。もりやんは、薪棚づくり、床ばりと、大活躍の1年でした。「えぇ〜、むりぃ〜できない〜」と言うまえに、どうやったら出来るか考えてみた挑戦の1年ということでした。

来年は…発電と別館のセルフリフォーム



ところで、裏鬼俤は豪雪地帯。データでは積雪3m地域となっているそう。それに恐れをなして、太陽光パネルを作っている会社は軒並み付けるのを嫌がります。標高が高く紫外線が強い分、意外に発電量多いんだって。助成金も使えないし不公平だと思いませんか？来年は、そうなんとか。そして、道路隣の旧家屋。これをいじりたいですね。地域の人も旅人もふらっと立ち寄れるようなコミュニティスペースにしたい。それとも、ネコカフェか。ネコじゃなくてクマが待ってたりして…。一緒に知恵と腕力を貸してくれる人は随時募集。住んでる人が楽しめる場所に、ここ裏鬼俤をしたいです。

編集後記

今年、一番がんばりました。この新聞。今朝「あ、そうだ」と思いつき、作ることに。もりさんは「仕事あるから手伝えないよ」と言うので、よっしゃ〜〜〜、とひとがんばり。

今年の中森家の様子など、いろいろ書いてみました。グーテン取材でも、今年の総括コメント収録予定なので、自分のためにも振り返りになりました。

よかったら読んでみて下さい。

それから、こんなにたくさん手で家をかくのは久しぶりということに気づき、がくぜん。漢字もだいぶ忘れています。でも、今後も、曽原新聞でも定期的につくろうかな。その時に絶対「今月の幸次郎さん」コーナーは作りたいです。

安珠